



## 海の水は手ですくうとどう明なのに、なぜ青く見えるの

### 太陽の光はいろいろな色の光がまじりあっている

太陽の光は、赤、だいだい、黄、緑、青、あい、紫の7色の光がまじりあって、白い光の色として陸や海にふりそそいでいます。

### 太陽の光が海に入ると、青い光が多く散乱する(散らばる)

海の水を手ですくっても、水は青く見えません。しかし、海岸や丘などから海をながめると、海の水は青く見えます。

太陽の光が海の中に入ると、太陽の光の中にある赤、だいだい、黄、緑などの光は吸収されてしまいます。あい、紫も10メートルくらいの深さで吸収されてなくなります。

青い光の多くは、海の水の中にかぶ、プランクトンやごみなどの小さいつぶにあたってはね返り、海が青く見えます。

青い光は100～180メートルくらいの深さまでとどきますが、それから先はとどきません。もし、海の中に入った光が全部吸収されたとなると、海は黒く見えます。

### 海の水が赤く見えるところもある

アフリカとアラビア半島にはさまれた、細長い紅海は、海の水が赤くなっているときがあります。それは、プランクトンが増えすぎたために、赤くなっているのです。

(監修・国司 真)

